



市内のデイサービス施設で俳句を教える長浜さん

輝いています

ひと

「帯」俳句会 代表

なが はま つとむ
長浜 勤 さん

蕨から俳句を広めたい

俳

句は自らが感じたことを表現する日常の詩です。気どったりする必要はありません。そう淡々と話すのは、市内で俳句の講師や「帯」俳句会の主宰者として活動する長浜勤さん（65歳・塚越1丁目）です。来月には同会初の俳句誌「帯」を創刊します。

俳人の曾祖父が残した句集との出会いを機に、小学生から俳句に親しみ始めた長浜さん。学生時代は独学でしたが、大学卒業後、多くの俳人を輩出する「沖」俳句会の門をたたき、本格的に俳句を詠み発表するようになります。「他者からの視点を得たことで、独りよがりでない自己表現に高めることができました」と、長浜

さん。仕事が忙しく句会を休んでいた時期には、あまり良い句ができなかつたそうです。40年に及ぶキャリアのなかで、長浜さんは停滞期を乗り越えながら数々の賞を受賞。平成28年には句集「車座」がみごと埼玉文芸賞に輝きます。また、俳人としての活動と並行して俳句誌「門」の編集にも長年取り組み、更に近年では公益社団法人俳人協会での俳句の普及などに尽力したほか、市内公民館や介護施設の俳句教室で講師も務めてきました。今後について、「これからは蕨を拠点に俳句を広め、地域に根付かせていきたいです」と話す長浜さん。先月で俳句誌「門」の編集を終え、現在は、市内で昨年立ち上げた「帯」俳句会の同人10人と会員25人による句を収めた俳句誌「帯」の創刊準備が大詰め段階です。「始めて間もないが、この句もありますが、いずれも魅力あふれる個性が詰まっています。俳句は決して高尚なものではなく、日々の生活に潤いをもたらしてくれるものです。「帯」がそのきっかけになればうれしいですね」。蕨にまた一つ、豊かな文化が芽生えようとしています。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蕨にあり

—No.47—



暁斎・三代豊国(初代国貞)合筆「江戸名所 築地浪除勝景」 大判錦絵三枚続

河鍋暁斎記念美術館 4月25日(土)まで
「暁斎・暁翠が描いた年中行事・おまつり」展
同時開催「暁斎プラスワンシリーズ34
暁斎を彩る一うちわ絵色差し」展

開館 = 午前10時～午後4時 ところ = 南町4-36-4
休館 = 木曜日・毎月26日～末日
入館料 = 一般600円 高校生・大学生500円 小・中学生300円
65歳以上500円 ※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証
をご提示ください。(20人以上の団体は要予約)
詳細 = 同館 ☎441・9780

詳しい内容は
美術館のホーム
ページをご
参照ください



背景には大海原に浮かぶたくさんの舟と多くの人々、春の潮干狩りの情景が描かれ、手前では美しい男女が酒宴を開いています。本図は暁斎が数え33歳の時、当時の浮世絵界の大御所で数え79歳の三代豊国と合筆した

錦絵です。豊国が人物を描き、暁斎は背景や手前の食べ物を描いています。右端の女性だけは暁斎が描いていることが、女性の前垂れに「狂斎」という暁斎が当時用いた画号が記されていることから分かります。



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ ぎょうさい
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)